

巻 頭 言

デファクト・スタンダードを目指して

代表取締役社長

野 澤 興 一



90年代におけるカー・エレクトロニクスの技術革新は、情報処理・通信・家電等の異業種分野との交流を図りながら急速に進展してきました。最新のテクノロジーを駆使した商品出現は更に新しい機能需要を触発しながら、次々とテクノロジー開発は進んでいます。当社もこの環境の中で新技術の開発に挑戦を続けておりますが、当社の活動を特許出願の面から概観してみます。

出願請求項数^{注)}はこの10年間で3,000項と約6倍に増加しています。技術者1人当たりの出願請求項数も約4倍に増えていることは、特許方策の重視と同時に、この分野の急速な技術成長を物語っています。ソフトウェア化の時代に対応して、ソフトウェアの出願占有率も80%と比重を高めており、今後の開発主流は制御のファームウェアからアプリケーション・コンテンツへと比重が移行していくと考えられます。

マルチメディアの今後の主軸となるナビゲーション、デジタル放送受信の‘97年出願が680項に急増した現象は、当社の開発パワーが、この分野に重点シフトしていることの証左であります。コンテンツの共用・流通ができるソフトウェア開発環境の整備が当社の重点方針であり、このコンテンツの財産が商品力となっていくと考えています。

自動車を安全に、快適に運転できる機能の追求は絶え間なく続けていますが、この実用化に向けて自動車の目であるミリ波関係、頭脳であるクルーズ関係の開発成果として、‘97年は620項程出願しており、今後この分野への要求機能は増々高度化することが予想されます。又、当社が25年間、取り組んできたミリ波の基礎技術の蓄積が、実用化される時期が間近に迫っていると確信します。

当社のメディア機器は、アナログのカセット機器からデジタルのCD,MDへその主力をシフトしており、コンパクトなチェンジャ機能を実現する精密機構の実現に向けて、'97年出願は150項と技術陣は挑戦しています。

さて、現在はメガ・コンペティション時代に突入しており、世界における企業競争は激化の一途にあります。この激戦の中で、「デファクト・スタンダード」と云われる事実上の世界標準の確立が次々に進んでいます。デファクトの確立については、世界の主力企業が、この主導権獲得を目指して凌ぎを削る争いをしていますが、残念ながら当社はこの土俵に入っていません。デファクトの主導権を握った企業のみが、世界市場のメジャ・シェアを取ってメガ・コンペティションに残れるという厳しい現実です。

今後、当社はこのデファクト・スタンダードとして通用する技術を世界に向けて開発することが最重要課題です。マルチメディア・ソフト、ミリ波、CDチェンジャ等は時代の先端を拓いている技術であると自負していますが、これらをデファクト・スタンダードに育て上げねばなりません。

では、これを実現するための主な基本要件として、

1. 新需要を創出できる画期的先端技術
2. 異業種にも通用する普遍的技術
3. オープンなインターフェイス

この3条件を具備することです。これらを実現するためには、技術者は幅広い先見力を持ち、常に協業相手の主張も十分に取り入れる度量を示しながら、システムの主導権を維持することをモットーに行動することが肝要と考えます。

当社はNo.1の商品づくりを実現して、世界に通用する企業になることが会社の行動方針であります。一日も早くデファクト・スタンダードの商品技術を実現致したく、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

注) 出願請求項数は、特許庁へ出願した発明の数